

小 学 校

平成 2 6 年度

# 教育研究員研究報告書

外国語活動

東京都教育委員会

# 目 次

I	研究主題について	
1	主題設定の理由	1
2	研究の仮説	2
3	「コミュニケーションにチャレンジする活動」の成立条件	2
4	研究構想図	3
II	研究の視点	
1	研究のねらい	4
2	コミュニケーションの捉え方	4
3	コミュニケーションにおいてやり取りされる情報の捉え方	4
4	本研究における基本的な英語教育の手法	5
III	研究の内容	
1	基礎研究①	5
2	基礎研究②	8
3	実態調査	8
4	検証方法	10
5	先行授業	12
6	検証授業	
	検証授業1	14
	検証授業2	16
	検証授業3	18
7	検証授業の結果と考察	20
IV	研究の成果と課題	
1	成果	23
2	課題	23
V	引用文献及び参考文献	
1	引用文献	24
2	参考文献	24
VI	資料	24

## I 研究主題について

### 1 研究主題設定の理由

外国語活動が完全実施となり、様々な自治体で研究や実践が深まってきている。外国語活動を取り巻く環境は、これからの日本の成長を見据え、めまぐるしい変化を遂げており、外国語教育への期待は日に日に高まっている。コミュニケーション能力や英語を使おうとする力は、子供たちの将来の進路の幅や選択肢を広げるものになる。そして何よりグローバル社会を生きていく子供たちにとって手助けになり生きる力に直結するものであると考える。

本年度の教育研究員の全体研究テーマは「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」である。外国語活動における思考力・判断力・表現力等は、その特色から、他教科とは違い、思考し、判断したことを、外国語を使って表現することになる。そこで私たちは、どんな言葉・方法で伝えるか思考し、伝える言葉を判断し、思いや意見を表現しようとすることができれば、全体の研究テーマに迫ることができると考えた。思考し、判断したことを、外国語を使って表現することは、児童が外国語でコミュニケーションを図ることで実現される。そのためには、児童が進んで、コミュニケーションを図ろうとする意欲をもつことが必要である。また、コミュニケーションを図ることができた喜びが、次のコミュニケーションの意欲へつながる。私たちは、コミュニケーションを図ることができた喜びを、「コミュニケーションの達成感・満足感」と捉え、授業の中で児童にこれらの感情を味わわせることが重要であると考えた。

そこで、7月に先行授業を実施し、児童がどのような活動に取り組めば「コミュニケーションの達成感・満足感」を味わうことができるのか分析を行った。また、平成25年度教育研究員は調査結果<sup>1</sup>の中で、「児童の多くが、ゲームやチャンツは楽しいと感じながらも大切な活動だとは思っていない。」「児童は互いの思いを伝え合うコミュニケーション活動は大切な活動だと感じながらも、楽しさを見いだせていない。」といった実態を明らかにしている。そこで、私たちは、現在の外国語活動でどのような活動が行われているのか、コミュニケーションの達成感・満足感を味わう体験をしているのか等についてアンケート調査を実施した。その結果、「現在の外国語活動の授業の中ではゲームやチャンツが占める割合が多い。」「ゲームやチャンツに児童は喜んで取り組んでいるが、コミュニケーションの達成感・満足感を味わうまでには至っていない。」という実態が明らかになった。

児童がコミュニケーションの達成感・満足感を味わい、次のコミュニケーションをとろうとする意欲へとつなげることができれば、外国語活動の目標を達成し、思考力・判断力・表現力等を高めることができると考えた。

以上のことから、私たちは本研究での主題を「コミュニケーションの達成感・満足感を味わわせる授業づくり」とした。

<sup>1</sup> 東京都教育委員会印刷物登録平成25年度第193号 (2014.3)「平成25年度教育研究員研究報告書小学校・外国語活動」

## 2 研究の仮説

事前アンケートの結果から、児童の多くが外国語活動の授業を楽しんでいることが読み取れた。しかし、感じているのは「ゲームやクイズ」の楽しさであり、コミュニケーションを図ることへの達成感や満足感を味わうには至っていない実状も明らかになった。

基礎調査や先行研究から、児童は相手に伝えることや相手の話を聞くこと自体に喜びを感じている傾向が見られた。また、単に情報のやり取りをするだけではなく、相手のことを理解した喜びや新たな気付き、驚きなどを感じていると見られる授業もあった。こうした達成感・満足感を味わう体験を積み重ねることで、児童は「またやりたい」と思うようになり、コミュニケーションに主体的かつ積極的になると考えた。

私たちは、コミュニケーションを重視し、コミュニケーションの達成感・満足感を味わうことができる活動を「コミュニケーションにチャレンジする活動」と定義した。この活動を授業に取り入れることで、研究主題に迫ることができると考え、次の仮説を設定した。

「コミュニケーションにチャレンジする活動」を意図的に取り入れることで  
児童がコミュニケーションの達成感・満足感を味わうことができるだろう。

## 3 「コミュニケーションにチャレンジする活動」の成立条件

「コミュニケーションにチャレンジする活動」を授業に取り入れる上で、次の5点をその成立条件とし、検証授業を通して効果を検証した。

### 成立条件① 児童にとって聞きたい内容・伝えたい内容があること

コミュニケーションをとることで、人と人とは、情報のやり取りをする。そこに共感や新たな発見などが生まれる。そのため、やり取りされる情報の質が達成感・満足感の度合いを左右することになる。「児童一人一人の考えが表れた情報」、「児童の知的欲求を満たし『知りたい』という興味が湧く魅力的な情報」、「児童一人一人の思い入れやこだわりのある情報」といった情報をやり取りすることで、相手への共感や、驚きなどが生まれると考えた。

### 成立条件② 児童にとって無理のない英語表現によって取り組めること

表現に慣れ親しみ、自信をつけてからコミュニケーション活動に臨めるよう段階を踏んだ指導が必要になる。単元の中で、表現に十分に慣れ親しむ段階を踏んだ指導を行い、児童にとって無理のない英語表現で取り組める活動にする必要があると考えた。

### 成立条件③ 単元の最終課題と成りえる活動であること

コミュニケーションにチャレンジする活動は、その単元の中で、学んだことを生かして単元末に設定されることが想定される。単元末にどのような課題を行うかを示したとき、児童が安心して、また主体的に取り組むことができる活動である必要があると考えた。

### 成立条件④ 外国語を学ぶ意義や価値に迫る活動であること

英語を学ぶ意義や価値に触れることができ、児童が目的意識をもって外国語活動に臨むことができる活動である必要があると考えた。

### 成立条件⑤ 児童にとって、単元の最後にどのような姿になっているか明確であること

単元を終えた時に、どのような姿になっているとよいかのイメージを児童に伝えておく。そうすることで、児童にとって達成できたかどうかのイメージがもちやすいと考えた。

#### 4 研究構想図



## II 研究の視点

### 1 研究のねらい

これまで小学校で行われてきた外国語活動の実践を基に、外国語活動の授業づくりのポイントを整理し、コミュニケーション能力の素地を養うための授業づくりをすることで、小学校の学級担任や外国語活動の担当が、各学校、各学級において授業づくりをする際の一助となると考えた。児童のコミュニケーション能力の素地を養い、外国語活動の授業をさらに充実させることが、本研究のねらいである。

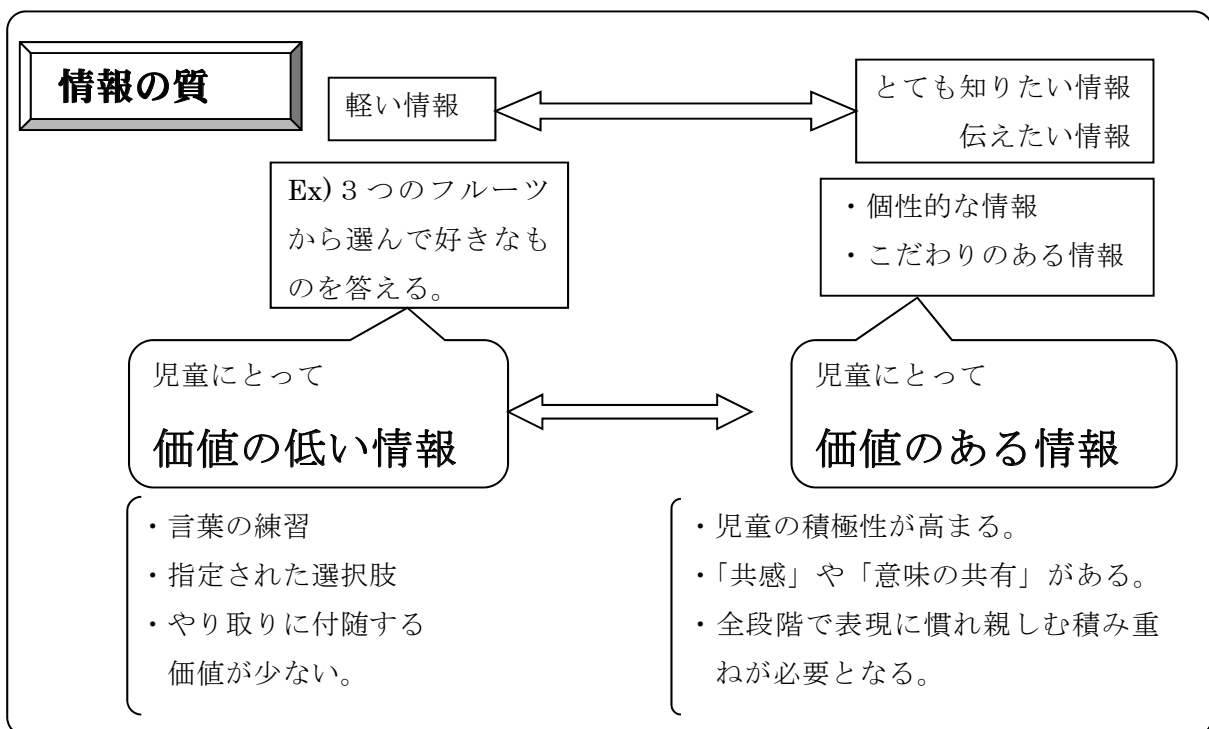
### 2 コミュニケーションの捉え方

コミュニケーションについて、広辞苑（第六版）<sup>2</sup>には、「社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。」とある。

本研究では、コミュニケーションを、「人間の間で、情報のやり取りが行われ、そこに共感や共通理解などが生じること」として捉えた。

### 3 コミュニケーションにおいてやり取りされる情報の捉え方

ここではコミュニケーションにおいて、やり取りされる「情報の質」について述べる。情報をやり取りして、コミュニケーションを図ることで、共感や共通理解などが生まれるということは先に述べた。私たちはさらに、【図1】のように、児童に共感や共通理解などが生まれるかどうかはやり取りされる情報の質に関わってくると考えた。こうした情報の質、そして「どのような情報に児童が興味を示すか」ということを、児童をよく理解している指導者が把握し、意図的に授業に取り込むことで、指導の充実が図られると考えた。



【図1】 情報の質の捉え方

<sup>2</sup> 岩波書店(2008.1.11)「広辞苑(第六版)」

#### 4 本研究における基本的な英語教育の手法

本研究では、コミュニケーションを重視した授業とするため、「コミュニケーション・アプローチ (Communicative Approach)」による授業を展開する。コミュニケーション・アプローチの特徴は以下の5点である。

- (1) 目標言語による対話があること
- (2) 使われる教材や交わされる会話等が本物であること
- (3) 授業の結果として身に付いた結果よりも、それを身に付ける過程が重視されていること
- (4) 使われる教材や交わされる会話等が、学習者一人一人にとって個人化されたものであること
- (5) 教室外でも目標言語が活性化されていること

これは「言語とは人と人が互いに意味、感情、意図などを伝え合い理解し合う道具である」という考え方に基づいている。英語教育においては単に英語を学び話せるようになることを目標にするのではなく、積極的なコミュニケーションの能力や態度の育成を重視した考え方である。現行の学習指導要領の考え方に通じており、本研究における基本的な英語教育の手法とする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基礎研究①

先行研究として、論文、書籍から小学校外国語活動に関わる事項をまとめた。全国の小学校から学習指導案を収集し、そのうちコミュニケーションを重視した学習指導案を分析した。ここでは、分析した学習指導案の概略について示す。

##### (1) 目的

全国の小学校において、実践的研究として行われた外国語活動の学習指導案の中から、コミュニケーションに重点を置いたものを抽出し、分析を行うことで、コミュニケーションにチャレンジする活動が成立するために必要な要素を明らかにする。

##### (2) 調査時点

平成26年8月

##### (3) 収集した学習指導案数

8事例

(4) 概略

ア **聞きたい・伝えたい内容がある活動**

① 弘前大学教育学部附属小学校（平成 25 年度文部科学省研究指定校）

- ・研究主題：豊かなコミュニケーション能力を育てる英語活動

豊かなコミュニケーションとは、子供が人まねではない自分の考えをもち表現したり、いろいろな人と積極的に関わりながら協調性をもって相手を受容したりできる能力。そのためには、まず思いをもたせる場面設定の工夫が肝要であるとしている。

イ **無理のない英語表現によって取り組める活動**

② 山梨県総合教育センター

- ・対象：第 6 学年
- ・単元名：We are good friends. 「オリジナルの物語を作ろう」
- ・周到な準備をした上で、無理のない段階を踏んだ指導過程を踏み、それによって授業を進めるうちに子供達は少々難しいと思うことでも徐々に楽しさを感じるようにしている。最初は、「できるかな」と思っていたことが「自分にもできた」という喜びに変わり、それが満足度や達成感、更には自信につながると考えている。

③ 岩手県盛岡市立仙北小学校

- ・対象：第 6 学年
- ・単元名：Let's go to Italy. 「友だちを旅行に誘おう」
- ・尋ねる側は、友達の行きたい国や理由について相手の言葉を繰り返すことで、確認し理解するまで尋ねるという態度を大切にしている。答える側は、何度も繰り返して言ったり、ジェスチャーを使ったりしながら、伝えようとする態度を大切にしている。
- ・インタビュー活動には、クラスで人気の国はどこか、また意外な国に行きたいという友達もいるかもしれないという視点をもたせている。

ウ **単元の最終課題となりえる活動**

④ 神奈川県立総合教育センター

- ・対象：第 6 学年
- ・単元名：What do you want? 「応援旗を作ろう」
- ・単元の目的：
  - ・国旗の由来や意味に興味をもつ。
  - ・欲しいものを積極的に伝え合おうとする。
  - ・色や形の英語表現を使って応援旗を作る。
- ・市の体育大会に向けて「応援旗を作ろう」というテーマを設定している。
- ・高学年の児童の主体的な知的な好奇心、見通しをもって取り組む力を生かした授業づくりという視点から、「課題解決的な学習方法が有効である」と考えている。



エ 目的意識をもった活動

⑤広島県府中市立上下北小学校

- ・友達との関係を円滑にすることができるよう、「お礼を言う、褒める」等の表現や動作を使う活動を設定し、児童が自然に活用できるようにしている。
- ・インタビュー前に、相手に伝えるにはどんな態度で話すとよいかを考えさせている。

⑥福岡県朝倉市秋月小学校（平成 25 年度文部科学省研究指定校）

- ・研究主題 英語を使ってコミュニケーションの楽しさを味わう児童の育成  
～ダイアログを生かした活動を通して～
- ・同小の考えるダイアログ：新しい英語表現や音声、リズムを聴き、繰り返しまねて、慣れてきた英語表現を繰り返したり、自分で試したりして学んだことを生かして伝え合う活動を取り入れている。
- ・対話モデルとしてのダイアログに、児童自身が慣れ親しんでいる外国語の元になる英語表現や既習の語彙、表現を用いて英語表現を付け足させ、よりオリジナルな対話にしていく。

⑦埼玉県羽生市立村君小学校

- ・対象：6年生  
単元名：What time do you get up?
- ・卒業生（中学1年生）のインタビュービデオを見て、1日の生活を聞き取り、自分の今の生活と比べるとともに、進学への意欲付けをする。

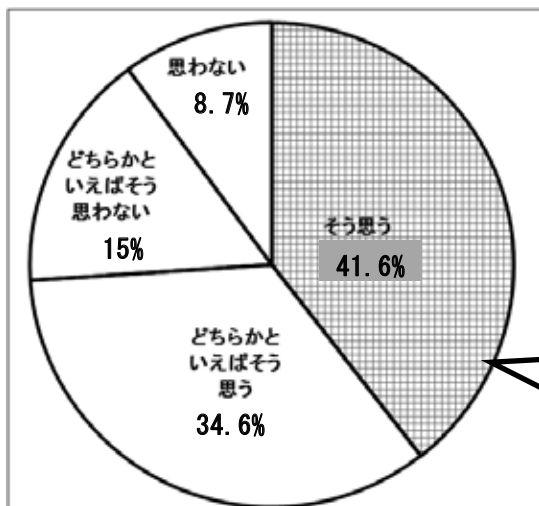
⑧広島県府中市立府中明郷小学校

- ・対象：6年生  
単元名：Turn right. 「府中市を案内しよう」
- ・地元の地名や施設など、身近な場所への道案内を取り上げている。
- ・友達との関係を円滑に活用できるよう、「お礼を言う、褒める」等の表現や動作を使う活動を設定し、児童が自然に活用できるようにしている。
- ・話す・聞く態度について、どのような聞き方・話し方がよいか児童に考えさせている。

## 2 基礎研究②

先行研究として、文部科学省が実施した平成 25 年度全国学力・学習状況調査<sup>3</sup>を調べた。

【グラフ 1】 英語の学習は好きですか。



【グラフ 1】から、「英語の学習は好きですか」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した児童は 76%である。

外国語活動の授業を通して、7 割以上の児童は英語の学習を好きになっていると考えられる。

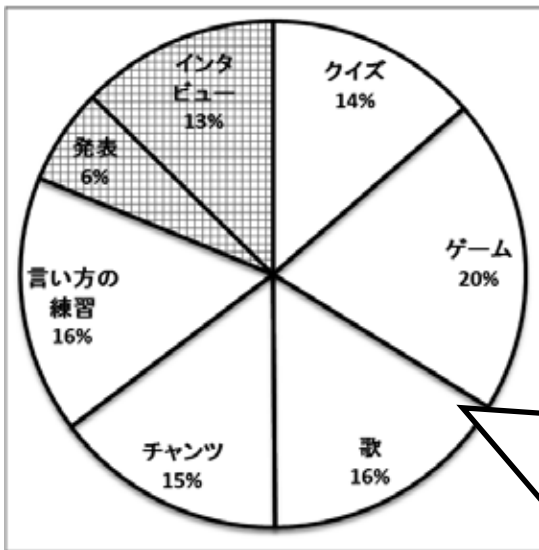
## 3 実態調査

現在の外国語活動の授業におけるコミュニケーションの達成感・満足感についての現状を調べるための実態調査を行った。本研究の研究仮説を検証するため、外国語活動のコミュニケーション活動に対する意識調査のアンケートを事前に 1,206 名の児童を対象に実施した。アンケート内容の詳細は 11 ページに掲載する。外国語活動におけるコミュニケーション活動への児童の達成感、満足感を見取る内容で行った。アンケートを実施した学校は以下の部員の所属校の 5、6 年生を対象とした 1,206 名である。

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| ・中央区立佃島小学校 209 名    | ・墨田区立業平小学校 124 名      |
| ・北区立赤羽台西小学校 92 名    | ・板橋区立富士見台小学校 138 名    |
| ・八王子市立鎌水小学校 263 名   | ・八王子市立みなみ野君田小学校 227 名 |
| ・小平市立小平第十四小学校 153 名 |                       |

<sup>3</sup> 文部科学省(2013)「平成 25 年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料<<全国版/小学校>>」

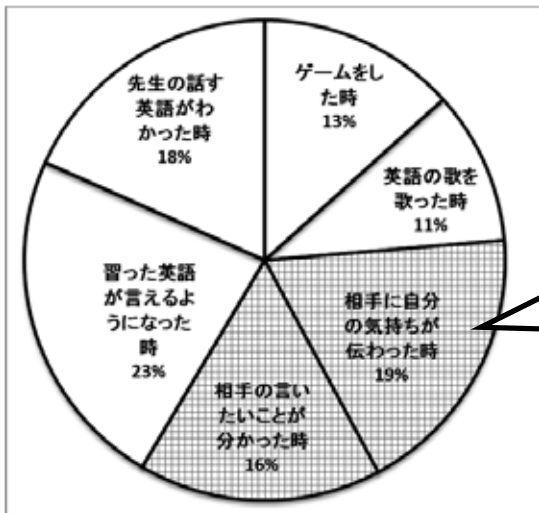
【グラフ2】 授業ではどんな活動をしていますか。



【グラフ2】において、授業内容のうち、クイズ、ゲーム、歌、チャンツ、言い方の練習と回答した児童の合計は67%であった。インタビューや発表と回答した児童は19%であった。

コミュニケーション活動やプレゼンテーション活動を行う場合、言い方の練習やゲームを通しての練習が主になってしまうことがある。ゲームや言い方を練習することは、本来のコミュニケーション活動とは異なる。しかし、表現を言えるようにしたり、自信をもたせたりするために、練習の時間が多くなっていることが考えられる。

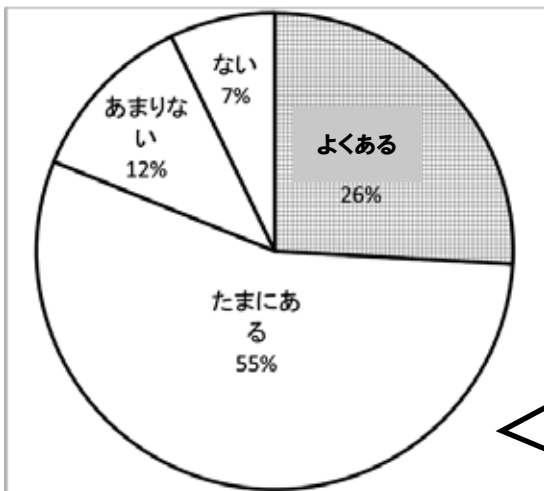
【グラフ3】 どんなときにできたと思いますか。



【グラフ3】で、コミュニケーションの達成感という視点で捉えられる「相手に自分の気持ちが伝わった時」と「相手の言いたいことが分かった時」の二つの回答の合計は35%となっている。

児童が慣れ親しんだ英語表現を活用して、「伝わった、言いたいことが分かった」と思う時にもできたという達成感が高いことが分かる。

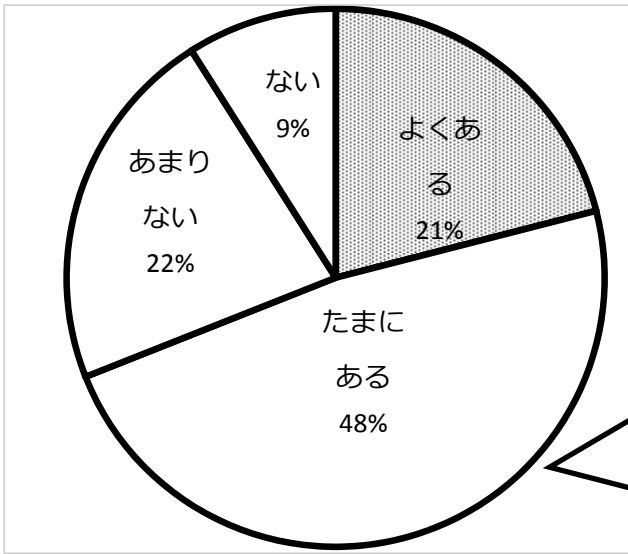
【グラフ4】 相手の考えを聞いて、「そうだったんだ」「なるほどな」などと思いませんか。



【グラフ4】において、相手の考えに共感するコミュニケーションをした体験が「よくある」とした児童は、26%にとどまっている。

いつも一緒に生活をしている友達だからこそ、聞いて初めて知る新たな発見がある。そして、もっと知りたいという気持ちにつながると考える。授業の中で、聞いてみたいという内容を設定することで、「よくある」という回答が増えると考えられる。

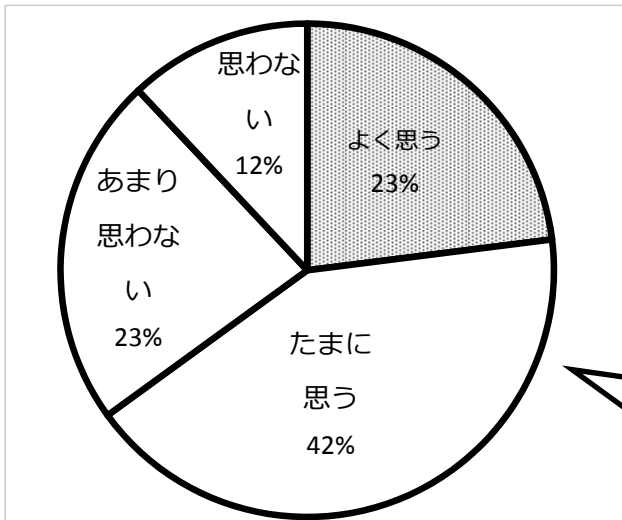
【グラフ5】 自分の思いや考えを相手に伝えて、うれしかったと思ったことはありますか。



【グラフ5】において、相手に思いや考えを伝えたことをうれしかったとする児童は、21%にとどまっている。

友達に話をするすることで伝わる喜びを実感することが大切である。自分の伝えたいことが伝わったということは、授業内容ができたという実感とともに達成感・満足感につながると考える。英語を使って表現したことが伝わったという安心感になり、次のコミュニケーションへの意欲につながると考えられる。

【グラフ6】 考えをやりとりする活動を通して、相手の考えをもっと知りたいと思いますか？



【グラフ6】において、相手の考えをもっと知りたいと回答した児童は、23%にとどまっている。

児童が相手のことをもっと知りたいと思う授業を展開し、聞きたい、知りたいという他者への興味・関心につなげる必要があると考える。

#### 4 検証方法

本研究の研究仮説を検証するため、3回の検証授業を行い、(1)児童の変容をみるアンケート及び(2)検証授業観察を行った。

##### (1) 児童の変容をみるアンケート

事前と事後のアンケート結果を比べ、児童のコミュニケーション活動への意欲の変容をみることにした。事後のアンケートから「できた」という児童の選択が増えたならば、達成感が得られたと捉えることができ、また「楽しい」「次の授業が楽しみだ」「うれしかった」「楽しかった」などという児童からの選択が増えたならば、満足感が得られたと捉えることができると考えた。

さらに、毎授業で使用している振り返りカードの記述からも、前向きな言葉「次が楽しみだ」など、達成感、満足感を表している言葉があれば、本研究の仮説が成り立つとこととした。

## 外国語活動アンケート(事前)

これは外国語活動の授業についてのアンケートです。

1. 授業ではどんな活動をしていますか(複数可)  
ア:クイズ      イ:ゲーム      ウ:歌      エ:チャンツ(リズムに合わせて言う)  
オ:言い方(言葉や文)の練習      カ:発表(スピーチ・劇)  
キ:インタビュー(自分や相手の考えを伝え合う)
  2. 授業の中で、どんな時に「できた!」と思いますか(複数可)  
ア ゲームをした時      イ 英語の歌を歌った時      ウ 相手に自分の気持ちが伝わった時  
エ 相手の言いたいことが分かった時      オ 習った英語が言えるようになった時  
カ 先生が話す英語がわかった時      キ その他( )
  3. 相手の考えを聞いて、「自分と同じ/ちがう」「そうだったんだ!」「なるほどな」等とすることがあります  
ア よくある      イ たまにある      ウ あまりない      エ ない
  4. 自分の思いや考えを相手に伝えて、うれしかったと思ったことはありますか  
ア よくある      イ たまにある      ウ あまりない      エ ない
  5. 考えをやりとりする活動を通して、相手の考えをもっと知りたいと思いますか  
ア よく思う      イ たまに思う      ウ あまり思わない      エ 思わない
- ※ 3「相手の考えを聞いて」 4「自分の思いや考えを相手に伝えて」 5「考えをやりとりする活動」とは、例えばインタビューをしておたがいの考えをやりとりしたり、店員役と客役とに分かれて注文したりといった活動を指します。

## 外国語活動アンケート(事後)

※ このアンケートは、今回の学習についてあてはまるものに○をつけてください。

1. 授業の中で、どんな時に「できた!」と思いましたか(複数可)  
ア ゲームをした時      イ 英語の歌を歌った時      ウ 相手に自分の気持ちが伝わった時  
エ 相手の言いたいことが分かった時      オ 習った英語が言えるようになった時  
カ 先生が話す英語がわかった時      キ その他( )
2. 相手の考えを聞いて、「自分と同じ/ちがう」「そうだったんだ!」「なるほどな」等とありましたか  
ア よくあった      イ たまにあった      ウ あまりなかった      エ なかった
3. 自分の思いや考えを相手に伝えて、うれしかったと思いましたか  
ア よくあった      イ たまにあった      ウ あまりなかった      エ なかった
4. 考えをやりとりする活動を通して、相手の考えをもっと知りたいと思いましたか  
ア よく思った      イ たまに思った      ウ あまり思わなかった      エ 思わなかった
5. 今回の学習において感じたことで、あてはまるものはありますか(複数可)  
ア 次の学習が楽しみになった  
イ 伝えたいことが英語で何というかわからないときに、ジェスチャーや習ったことで何とか伝えようとした  
ウ 自分の思いが相手に通じた      エ 自信がついた  
オ 友達や先生にほめられてうれしかった      カ 新しい発見があった  
キ 友達との共通点やちがいが面白かった      ク めあてをもって、すすんで取り組んだ  
ケ その他( )

## (2) 先行授業・検証授業の実施

### 【先行授業】 「墨田区立業平小学校 第6学年」

単 元 …「Hi, friends 2」Lesson5 「Let's go to Italy.」

実施時期…平成26年7月2日(水)

指導者 …主任教諭 金田 晃子

### 【検証授業1】 「八王子市立鑑水小学校 第5学年」

単 元 …「Hi, friends 1」Lesson5 「インタビューをしよう」

実施時期…平成26年9月12日(金)

指導者 …主任教諭 吉田 裕介

### 【検証授業2】 「八王子市立みなみ野君田小学校 第5学年」

単 元 …「Hi, friends 1」Lesson7 「たからものは何だろう」

実施時期…平成26年10月17日(金)

指導者 …教諭 江藤 信之

### 【検証授業3】 「中央区立佃島小学校 第5学年」

単 元 …「Hi, friends 2」Lesson8 「同窓会をひらこう」

実施時期…平成26年11月20日(木)

指導者 …主任教諭 小塚 葉子

### 【検証授業観察の視点】

<「コミュニケーションにチャレンジする活動」が意図的に取り入れられているか>

- ・学習指導案に成立条件を満たしたコミュニケーション活動が設定されているか。
- ・実践の中で、コミュニケーションにチャレンジする活動が展開されていたか。

<児童がコミュニケーションの達成感・満足感を味わうことができているか>

- ・自分から友達に積極的に声をかけていたか。
- ・自信をもってコミュニケーションを図っていたか。
- ・何とかして考えを伝えようとしていたか。
- ・笑顔でコミュニケーションを図っていたか。

## 5 先行授業（墨田区立業平小学校第6学年での実践）

### (1) 授業の内容

ア 単元名 “Hi, friends! 2” Lesson5 “Let's go to Italy. ”

イ 授業の概要

実践校では、オリンピック教育の一環として“Good morning around the world”を行っている。「おもてなしの心」を育てるために、オリンピックに出場する様々な国の挨拶をその国の言葉で行うことを朝の挨拶運動で取り組んでいる。今回、実際にスカイツリーに観光に来ている外国人に「朝の挨拶の仕方」についてインタビューし、インタビューで調べた各国の挨拶を、実践校における挨拶運動に取り入れることとした。児童は初対面の外国人とコミュニケーションをとることで満足感・達成感を得ることができると考え、この場を設定した。

## ウ 学習過程の工夫

伝えたいことや相手の言葉の中に理解できない言葉が出てきても、身振り手振りで伝えたり、紙に書いて説明してもらったり、本来外国人とコミュニケーションを図る上で必要となる英語以外の手段にも本時に向けて授業内で取り組んだ。完璧に理解できなくても相手の言っていることを何となく「理解できた」、自分の想いを「伝えられた」という達成感を味わえるように工夫した。外国への関心を更に高め、自信をもってインタビューできるように授業を組み立てた。

## エ コミュニケーション活動の工夫

「聞きたい」という意欲を高めるための活動とする。友達や先生、ALT以外の初対面の外国人と話すことで、自分が伝えたい英語が相手に伝わるのが喜びとなるように設定した。また、間違いを恐れず安心してインタビューできるように各班に教員がつき、サポートを行う。

### (2) 本時（全4時間中の第4時間目）の学習の概略

Warm up	挨拶、本時のめあて・流れの確認
Activity	「スカイツリーでインタビューしよう！！」 実際にスカイツリーを訪れている外国人に英語でインタビューを行う。
Follow up	振り返り、挨拶

### (3) 授業後の児童の感想（抜粋）

- ・ とても緊張したが、外国人の方が優しく答えてくれた。
- ・ もっと英語をがんばろうと思った。
- ・ 自分の英語が通じて、とてもうれしかった。
- ・ 習った表現以外の質問もしてみたかった。

### (4) 先行授業の分析

- 単元の最後に、スカイツリーに観光に来ている外国人にインタビューするという目的意識をしっかりとつこと、英語を話す必然性が生まれた。

成立条件①→聞きたい・伝えたい内容がある場の設定

- カルタを通して、各グループで十分に表現に慣れ親しんだ後、役割分担を行い、インタビューに向けての準備をしっかりと行ったことで、児童にとって無理のない活動となった。

成立条件②→表現に十分に慣れ親しめる段階を踏んだ指導

- 単元の最初に最終課題「スカイツリーで外国人にインタビューをすること」を明らかにしたことにより、児童は目的をもって主体的に活動に取り組むことができた。

成立条件③→単元の最終課題となりえる活動の設定

- 実際に外国人と話すことにより、どこの国から来ているのか、どんな言葉を使っているのかなど、児童は英語を学ぶ意義について感じ取ることができた。

成立条件④→外国語を学ぶ意義や価値に迫る活動の設定

## 6 検証授業

検証授業では、「コミュニケーションにチャレンジする活動」の有効性の検証と、改善策の検討を行った。

### 【検証授業1】(八王子市立鎌水小学校 第5学年の実践)

(1) 単元名 “What do you like?” 「友だちにインタビューしよう」 “Hi, friends! 1 Lesson 5”

(2) 単元の目標 (ア)好きなものについて、積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。

(イ)色や形、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。

(ウ)日本語と英語の音の違いに気付く。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①積極的にゲームやアクティビティに取り組んでいる。 ②好きな色や形について、話したり聞いたりしている。	①色や形の言い方等、本単元で扱う言葉や表現を使おうとしている。	①日本語の中の外来語と、元の英語との音の違いに気付いている。
・様々な活動に、積極的に参加している。	・インタビュー等の活動を通して、好きなものの尋ね方を話そうとしている。	・色や形の言い方の発音練習を通して、外来語と英語との音の違いに気付いている。

(4) 単元の内容

自分や友達の良い好きなもの伝え合うという題材は、話したい・聞きたいという学習意欲が高まる題材であると考えます。第4時までには、チャンツやアクティビティ等で尋ねる表現に十分に慣れ親しませ、単元の終末のメインアクティビティに臨むことで、コミュニケーションすることの達成感や満足感を味わわせたい。そこで、以下のような活動を考えた。

- ・ **Tシャツインタビューゲーム**

児童が自分で考えたTシャツのデザインを、ワークシートに一覧にして見られるようにし、インタビューをして誰がどんなTシャツを描いたのか明らかにする活動である。

- ・ **クラスランキング**

What ○○ do you like? の表現を使い、多くの人にインタビューをする。集めた情報を基に、ランキングを予想して楽しむ活動である。何について伝え合うかは、児童の思いを聞いて決定した。(アンケートをとった結果、①色②スポーツ③動物に決定した。)

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	学習活動	評価規準
1	日本語と英語の音の違いに気付き、色や形の言い方を知る。	・色や形の言い方を知る。	ア① イ①ウ①
2	色や形の言い方に慣れ親しみ、好きなものは何かを尋ねる表現を知る。	・好きなものは何かを尋ねる表現を知る ・オリジナルTシャツ描き	ア①② イ
3	色や形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。	・Tシャツインタビューゲーム (前半)	ア①② イ
4 本時	好きなものについて、積極的に尋ねたり答えたりしようとする	・Tシャツインタビューゲーム (後半) ・クラスランキング	ア①② イ



(6) 本時（全4時間中の第4時間目）

① 本時の目標

○好きなものについて、積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。

② 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点・ 配慮事項 ●教材・教具	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導入	1. 挨拶をする 2. 前時までの復習をする ・p20 Let's Chant をする	○大きな声を出したり、 ジェスチャーを使っ たりしている児童を 褒める。	
展開 1	3. Tシャツインタビューゲームをする ①役割を聞き手と話し手(描き手)に分ける。 ②聞き手は自由に動いて、話し手にインタビュー していく。 ③いくつか質問をして、話し手がどのTシャツを デザインしたのか当てる。 ④正解したら次の話し手へインタビューする。 (例)A/B: Hi. A: What color do you like? B: I like black. A: What shape do you like? B: I like stars. A: How many stars? B: Three. A: (絵を指したり番号を言ったりする) B: Yes. / No. A/B: Bye. ⑤時間になったら、全体で実際のデザイン を見て、誰の作品か確認する。	○やり取りの仕方を、全 体で確認する。 ●ワークシート 成立条件①	☆積極的に活動に取り 組んでいる。 【ア①②(観察)】 ☆色や形について尋 ねたり答えたりし ている。 【イ(観察)】
展開 2	4. クラスランキングを作る (1) 自分たちで決めた、好きなものについて尋 ねる。 ①色 ②スポーツ ③動物 (例) A: What animal do you like? B: I like dogs. What animal do you like? A: I like rabbits. A/B: Thank you. Bye. (2) 集めた情報を基に、①②③についてのラン キングを、班で予想する。 (3) 予想したランキングが合っているか、クラ ス全体で確かめる。	○それぞれの尋ね方につ いて、全体で確認する。 ○ワークシートには、日本 語で書き込むことにす る。 ○アンケートを事前を取 っておき、教師はランキ ングの結果をあらかじめ 把握しておく。 ●ワークシート 成立条件④	☆積極的に活動に取り 組んでいる。 【ア①②(観察)】 ☆好きなものについ て、尋ねたり答え たりしている。 【イ(観察)】
まとめ	5. 学習の振り返りをする (1) 今日の学習を終えて、友達との関わりの中 で気が付いたこと等を、振り返りカードに 記入する。 (2) 数名の児童が発表する。 6. 終わりの挨拶をする		☆今日の活動につい て気付きがある。 【ア①②、 イ(発表、振り返 りカード)】

【検証授業 2】(八王子市立みなみ野君田小学校 第 5 学年の実践)

- (1) 単元名 “What’s this?” 「たからものは何だろう」 “Hi, friends! 1 Lesson 7 ”
- (2) 単元の目標 (ア)ある物について積極的にそれが何かと尋ねたり、答えたりしようとする。  
 (イ)ある物が何かと尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。  
 (ウ)日本語と英語の違いから、言葉の面白さに気付く。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に対する気付き
①ある物について、積極的にそれが何かと尋ねたり答えたりしようとしている。	①ある物が何かを尋ねたり、それが何か答えたりしている。	①様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付いている。

(4) 単元の内容

会話を自然な形で行うために「What’s this?」という表現を使う場面として、自分のたからもの当てゲームを設定した。また、Yes/No で答えるだけの一問一答ではなく、What という質問では様々な答えが予想され、その中で、ヒントになるような表現「What color?」「What shape?」なども併せて使うことができる。さらに、ジェスチャーや自分の知っている単語などを使うことで、相手の言うことをよく聞いたり、答えを考えたりする活動は、コミュニケーションの楽しさや大切さを味わわせると同時に、コミュニケーションを通じた達成感、満足感に繋がっていくことに適していると考えた。

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	活動内容	評価規準
1	様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付くとともに、身の回りの物を表す語に慣れ親しむ。	What’s this? を使って、海という漢字が付く生き物を紹介する。	ウ①
2	身の回りの物を表す語や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	①シルエットクイズ ②漢字クイズ ③スリーヒントクイズ ④パズルクイズ	ア① イ①
3	ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	クイズ大会に向けて、グループごとにこれまでに行ったクイズなどから選んでクイズの準備をする。	イ①
4	ある物が何かを積極的に尋ねたり答えたりする。	グループごとに分かれて、これまで行ったクイズから 1 つ選び、自分たちでクイズ大会を行う。	ア①
5 本時	What’s this? やこれまで習った表現を使って、友達の袋の中身のたからものをあてる。	不透明な袋を使い、What’s this? などの表現を使って、自分のたからものを当ててもらったり、友達のたからものを当てたりする。	ア①

(6) 本時 (全5時間中の第5時間目)

① 本時の目標

- 自分のたからもので問題を出したり、友達のとからものを予想して答えたりしながらコミュニケーションの楽しさに気付く。

② 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ・配慮事項 ●教材・教具	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導入	<p>1 挨拶をする</p> <p>2 前時までの復習をする</p> <p>What's this? That's right. Bingo! Hint, please. Touch OK? Gesture, please.</p> <p>・Let's listen やりとりしている絵を使いデモンストレーションする。 What's this? It's ~.</p>	<p>○笑顔で楽しい雰囲気をつくり、挨拶する。</p> <p>●CDを使用する。</p> <p>○リズムよくピクチャーカードをめくり連取させる。 リピート2回→リピート1回 → カードを見せて児童だけで行う。</p> <p>○クラスの半分ずつで練習させる。全体で最後に行う。</p> <p>○前時を想起させながら、練習させる。</p>	
展開	<p>3 たからもの当てゲームをする</p> <p>(1) 友達のとからものを尋ねたり、自分のたからもの(当ててもらいたい物)を伝えたりする。</p> <p>(2) 4人のグループごとに問題を出し合う。</p> <p>(3) 各グループで順番を決め、不透明な袋に入れたたからものが何かを当てさせる問題を出す。答える側は、何が袋に入っているかを予想して答える。会話が終わったら、交代して問題を出す。</p> <p>(例)A/B: Hi. Rock, scissors, paper, 1, 2, 3! (勝った方から問題を出す) A: What's this? B: It's ~. (予想) A: Yes. / No. B: What color? A: It's ~(色) B: What shape? A: It's ~(形). B: Big or small? A: It's big/small. B: It's ~. A: Bingo (交代する) A/B: Bye.</p>	<p>○やり取りの仕方を、全体で確認する。</p> <p>成立条件①、③</p> <p>○今まで習った表現や、ジェスチャーを使って自分の考えを伝えようとしていた。 △うまく表現できなくて、もどかしさを感じながら黙ってしまう児童がいた。</p> <p>どうなることがこの単元の目標であるか、達成できたということが言えるのかが曖昧になっていた。そのため、児童は自分のたからものを紹介したり、友達のとからものを当てたりすることはできたものの、達成感を味わうことができなかった。 ※達成のポイントを明確にすることが必要。</p>	<p>☆積極的に活動に取り組んでいる。 【ア①(観察)】</p>
まとめ	<p>4 本時の学習を振り返る</p> <p>(1) 今日の学習を終えて、友達との関わりの中で気が付いたこと等を、振り返りカードに記入する。</p> <p>(2) 数名の児童が発表する。</p> <p>5 終わりの挨拶をする</p>	<p>成立条件④</p>	<p>☆今日の活動について気付きがある。 【ア①、ウ(発表、振り返りカード)】</p>

【検証授業3】(中央区立佃島小学校 第5学年の実践)

(1) 単元名 “Welcome to the class reunion in 2030” 「2030年同窓会を開こう！」  
“Hi, friends! 2 Lesson 8 ”

- (2) 単元の目標 (ア)職業についての表現や職業を尋ねる表現に慣れ親しむ。  
(イ)2030年の自分になり切ってドラマを行う。  
(ウ)ドラマの中で職業(将来の夢)について積極的に紹介しようとする。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①職業について、積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。 ②ゲームやアクティビティに積極的に取り組んでいる。	①職業についての表現を使おうとしている。	①英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気付く。

(4) 単元の内容

本単元では、職業について尋ねたり答えたりすることをねらいとした。このねらいを達成するために、What do you do? I’ m～.の言い方を学習した。将来なりたいもの(職業)という題材は、話したい・聞きたいという学習意欲を高めることができた。また、職業についての表現は、教科書に出ている語彙だけでなく、実際に子供たちがなりたいものについても慣れ親しませ、本番まで誰にも明かさないようにして期待感を高めた。

この単元における最終課題は、未来の自分になり切って「ドラマ(drama)」を行い、友達と職業について紹介し合うものである。また、「2030年の同窓会」という状況設定を与えることで、同じやり取りでも、感情移入しやすく生き生きとした会話になるよう工夫した。また、会話の目的(職業について紹介)だけを与えることで、小さな間違いは気にせず、目的を達成することだけを目指し、個人のレベルに合わせて「アドリブ」(「文章でなく単語で」「なるべく言いやすい語彙で」「ボディーランゲージを効果的に使って」など)でできるようにした。台詞のような決まり切った表現でなく、「相手の言ったこと」に合わせて、(目的を達成するために)自分の言いたいことを即興で言えるようにし、より自然な現実の会話に近づけるようにした。相手の言ったことに合わせてリアクションする(コメントする)など、聞き手・話し手双方が達成感・満足感を味わえるよう工夫した。

(5) 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	学習活動	評価規準
1	久しぶりに友達に再会したときの挨拶の表現を復習し慣れ親しむ。	・パターンプラクティス ・インタビュー	ア①② イ①
2	コメント(感想)の言い方を復習し慣れ親しむ。	・パターンプラクティス ・かるたとりゲーム	ア① イ①、ウ①
3	職業を尋ねたり答えたりするときの表現に慣れ親しむ。	・インタビュー ・スリーヒントクイズ	ア② イ①
4 本時	ドラマ仕立てで職業について、積極的に尋ねたり答えたりする。	・ウィスパリングゲーム ・ドラマ	ア①② イ①

(6) 本時 (全4時間中の第4時間目)

① 本時の目標

○ 職業について、積極的に尋ねたり答えたりしようとする。

② 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点・配慮事項 ●教材・教具	学習活動に即した 具体的な評価規準 (評価方法)
導入	1. 挨拶をする 2. 前時までの復習をする 身振り手振りを使って伝える練習をする。	○大きな声を出したり、身振り手振りをしたりしている児童を褒める。 成立条件②	
展開1	3. 伝言ゲームをする  成立条件②  成立条件①、③  What do you do? I'm an architect. I'm a train driver. I'm an explorer. I'm a scientist. I'm a movie star. I'm a fisherman.	○ゲームの方法やルールを全体で確認する。	○単に職業表現を伝達するだけでなく、必ず英語で尋ねられてから、答える(伝達する)というやり取りができていた。
展開2	4. ドラマを行う (1) 場の設定について確認する。 (2) 同窓会でどのようなやりとりをしたらよいかを考える。今まで学習した表現の中から考えさせる。 ◇久しぶりに会うときの挨拶 ◇こんな遊びをよくしたね ◇今どんな仕事をしているの? ◇コメント(「いいね」等) ◇その場を離れる時の挨拶 (3) ルールの確認 (4) ドラマ  成立条件④、⑤  成立条件④	○板書する(黒板に貼る)英語表現は最小限のものとする。 ○ルールを日本語と英語できちんと確認する。 ○目的(職業についての紹介)さえ達成できれば身振り手振りやより簡単な表現を使って伝えてもよいことを伝える。 ○ただ覚えたフレーズを言うのでなく、相手のリアクションに注意を払い、それにきちんと反応するように促す。	☆積極的に活動に取り組んでいる。 【ア①②(観察)】 ☆職業について、尋ねたり答えたりしている。 【イ(観察)】 ○相手の気持ちや考えを聞いたらず必ずコメントしていた。これにより話し手・聞き手双方がやりとりに満足していた。 △男女間の交流がやや少なかった。
まとめ	5. 学習の振り返りをする (1) 今日の学習を終えて、友達との関わりの中で気が付いたこと等を、振り返りカードに記入する。 (2) 数名の児童が発表する。 6. 終わりの挨拶をする		☆今日の活動についての気付きがある。 【ア①②、イ(発表、振り返りカード)】

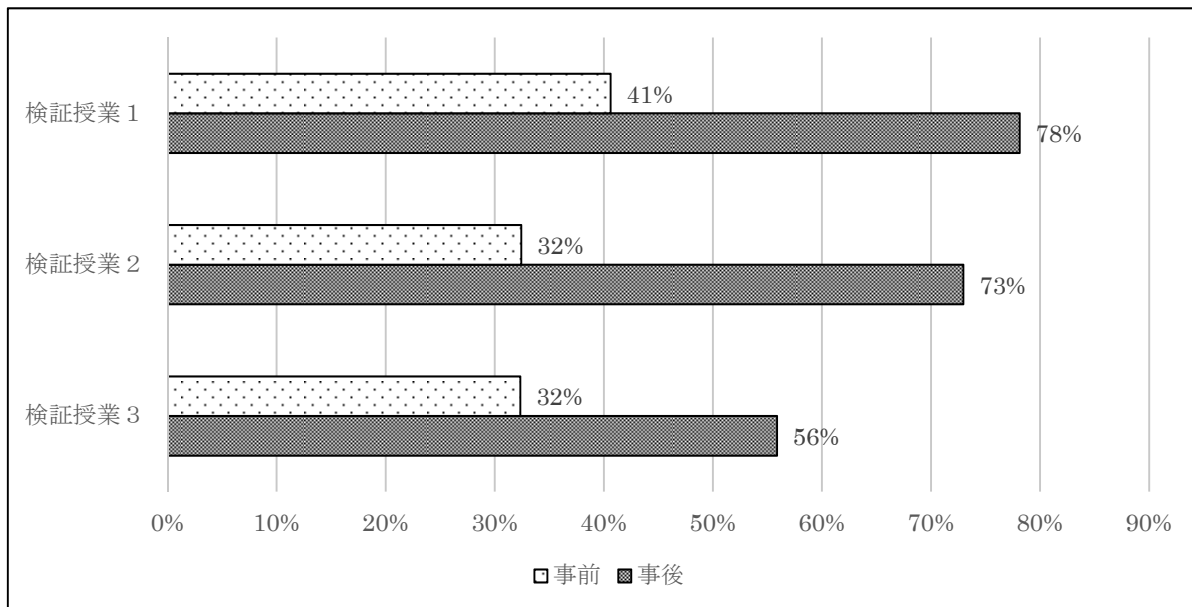
## 7 検証授業の結果と考察

3つの検証授業において、達成感と満足感について検証する事前・事後のアンケート、及び、単元後に行った児童の学習の感想について、分析を行った。

### (1) 【達成感】について

(質問) 授業の中で、どんなときに「できた!」と思いますか。

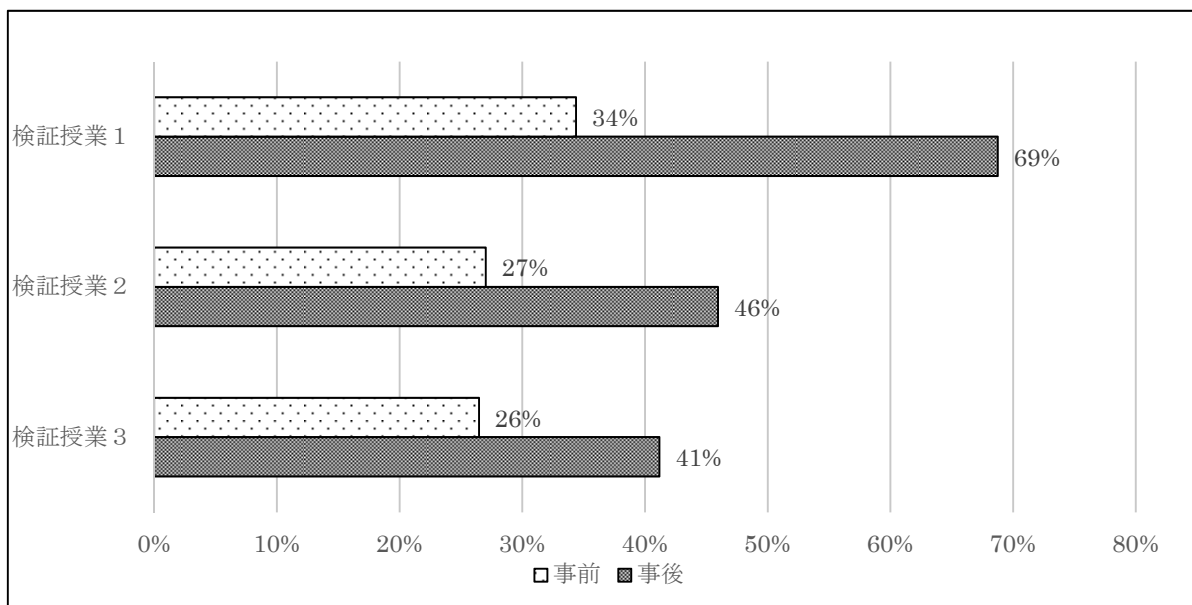
#### ① (回答) 相手に自分の気持ちが伝わった時



授業後にとったアンケートで、数値が 1.5~2 倍程度伸びた。

→児童が伝えたい内容を伝えることができたことで、達成感を感じることができたと考えられる。

#### ② (回答) 相手の言いたいことが分かったとき

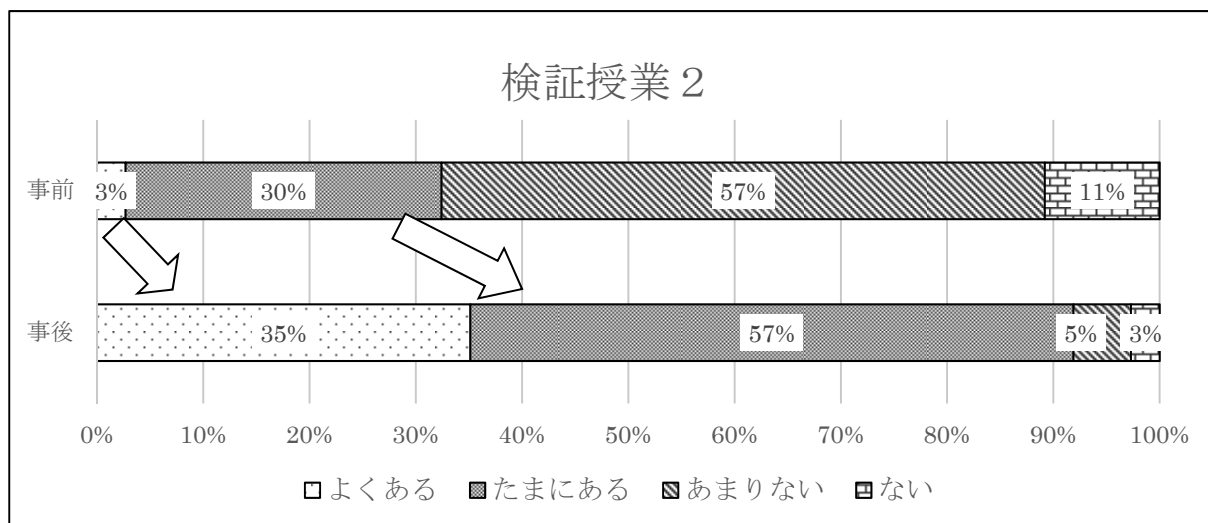


授業後にとったアンケートで、数値が 1.5~2 倍程度伸びた

→授業で練習した言い方が分かり、友達の伝えたいことが分かっていた。また、情報の質が高いことで、コミュニケーションをとることへの達成感が高まったと考えられる。

(2) 【満足感】について

(質問) 自分の思いや考えを相手に伝えて、うれしかったと思ったことはありますか。



「よくある」「たまにある」といった肯定的評価が、大きく伸びた。  
→相手に伝わる喜びが感じられる活動であったと考えられる。

※検証授業 1 と 3 においても、同様の結果が得られた。

	検証授業 1		検証授業 3	
	事前	事後	事前	事後
よくある	34%	69%	11%	61%
たまにある	53%	22%	39%	38%
あまりない	9%	6%	11%	0%
ない	3%	3%	39%	0%

(3) 授業後の児童の感想の検証

検証授業 1	検証授業 2	検証授業 3
<p>【達】 今までよりも相手の言っていることが分かり、とても楽しかった。</p> <p>【達】 いろいろな人と会話ができて、何を話しているのかが伝わってよかった。</p> <p>【満】 たくさんの人との会話ができるようになったことが、とてもうれしかった。</p> <p>【満】 みんなのいろいろなことや、先生のことを知ることができてよかった。</p>	<p>【達】 自分のたからものをみんなに当ててもらえて、うれしかった。</p> <p>【達】 相手に自分のことを伝えることができた。</p> <p>【満】 たからもの紹介で自分から友達に話しかけられるようになった。</p> <p>【満】 自分のたからものをたくさんの人に英語で紹介できて良かった。</p>	<p>【達】 友達の職業を聞いて、感じたことをたくさん言えた。</p> <p>【達】 うまく英語を話すのではなく相手に分かるように話すことができた。</p> <p>【満】 言葉だけでなく身振り手振りをつけて再会のうれしい気持ちを表現できた。</p> <p>【満】 自分が言ったことに、友達が No kidding とか Cool と言ってリアクションしてくれてとても嬉しかった。</p>

【達】 達成感を感じていると認められる感想      【満】 満足感を感じていると認められる感想

上記の感想以外にも、達成感・満足感について、多くの肯定的な感想が見られた。

→児童は達成感・満足感を味わうことができていると考えられる。

(4) 検証のまとめ

- ① 3回の検証授業において設定した、「コミュニケーションにチャレンジする活動」はいずれも成立したと考えられる。

検証授業 1	検証授業 2	検証授業 3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tシャツインタビューゲーム</li> <li>・ クラスランキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たからもの当てゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドラマ</li> </ul>

- ② 上記のコミュニケーションにチャレンジする活動を意図的に取り入れた授業において、児童はコミュニケーションの達成感や満足感を味わうことができたと考えられる。

- ③ 以上のことから、「コミュニケーションにチャレンジする活動」を意図的に取り入れた結果、児童はコミュニケーションの達成感・満足感を味わうことができると結論できる。

(5) 授業者の実感

	実感
検証授業 1	<p>○Tシャツインタビューゲームでは、自分がデザインしたTシャツについて、相手からの質問に積極的に答えようとする姿や、互いに聞き終わるとすぐに次の相手を探してインタビューする児童の姿が、多く見られた。ワークシートいっぱい描かれたTシャツについて、自分も伝えたい、相手のTシャツについても聞きたい内容があったと言える。</p> <p>△一方で、コミュニケーションを楽しむというよりは、ただ正解することを楽しんでいる様子も見られた。勝敗を競うゲームではなかったが、コミュニケーションする楽しさの意識付けが課題であると考えられる。</p> <p>○チャンツは、リズムに合わせて無理なく言えるため、本時で扱う質問文の習得に有効であった。「What ○○ do you like?」の○○の言葉を、既習のスポーツや動物に替えれば、習得できる表現を簡単に増やすことができた。</p> <p>○クラスランキングを予想するために、児童は多くの人にインタビューをして多くの情報を集める必要を感じる。そのインタビューで、今まで練習してきた表現を使う。ということを実感できるよう、単元の最終課題を提示したことで、児童は目的意識をもち主体的に活動することができた。</p>
検証授業 2	<p>○自分が大切にしているたからものをただ紹介するのではなく、友達に What's this? を使って質問させる設定にしたことで、紹介する側も、当てる側も積極的にコミュニケーション活動に取り組む姿が見られた。自分しか知らない情報を伝えることで、友達のことをもっと知りたいという意欲が湧いたことが振り返りカードを通して分かった。</p> <p>△単元の到達ポイントの示し方が不十分であったため、児童の中には学習を通してできなかったかをはっきりと実感させることができない者がいた。</p> <p>△5年生のこの段階では、知っている表現が少ないため、日本語で伝える以外のことで伝えたり、質問したりしていたものの、自分の思いが伝えきれないもどかしさを感じている児童がいた。より多くのジェスチャーを使うことでコミュニケーションをとれる楽しさを感じさせるなどの手立てが必要であった。</p>
検証授業 3	<p>○ドラマは、有効であったと考える。会話の目的(職業について紹介)を与えることで、小さな間違いは気にせず、目的を達成することだけを目標に、英語をツールとしてコミュニケーションする様子が見られた。</p> <p>○「文章でなく単語で」「なるべく言いやすい語彙で」「ボディーランゲージを効果的に使って」など、台詞のような決まり切った表現でなく、「相手の言ったこと」に合わせて、工夫してリアクションする(コメントする)ことができていた。これにより、聞き手・話し手双方が達成感・満足感を味わっていた。</p> <p>△同性間に比べて異性間でのコミュニケーションが少なかった。ドラマの中では、即興でコミュニケーションにチャレンジすることを目標にしていたため、特別に異性間でのコミュニケーションを勧めることはしなかったが、声掛けなどの意識付けがあるとよいと思われる。</p>



## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 研究の仮説

##### 研究の仮説

「コミュニケーションにチャレンジする活動」を意図的に授業に取り入れることで、児童がコミュニケーションの達成感・満足感を味わうことができるだろう

コミュニケーションにチャレンジする活動を意識して組み立てた三つの検証授業において、児童がコミュニケーション活動に取り組み、達成感・満足感を味わう姿が多く見られたことや、事前・事後アンケートでコミュニケーションへの意欲に関わる質問に対しての達成感・満足感の割合が大きく向上したことから、仮説の妥当性を認めることができた。

#### (2) 「コミュニケーションにチャレンジする活動」にするための成立条件の有効性

##### ア 児童にとって聞きたい内容・伝えたい内容であること

三つの授業とも児童が自分でデザインしたTシャツ、自分の宝物、自分が将来なりたい職業と自分の思いを表現できる内容であった。そのため、尋ねる側としては友達についての新たな驚きや発見があり、尋ねられる側としては自分の思いを理解してもらい喜びがあった。このような温かいやり取りのあった結果、友達の話を知りたいという意欲や相手からの質問に積極的に答えようとする意欲を高めることができた。

##### イ 児童にとって無理のない英語表現によって取り組めること

チャンツやアクティビティを通して英語表現を計画的に増やしていった。チャンツは、リズムに合わせて無理なく言えて、繰り返していくうちに自然に習得できる表現を増やすことができた。インタビュー活動では、授業で練習した英語表現が定着し、互いに無理なくコミュニケーション活動に取り組む姿が見られた。

##### ウ 単元の最終課題となりえる活動であること

コミュニケーションを図って新しい情報が得られる楽しさを味わうことのできる最終課題を設定することで、児童はゴールに向かって意欲的に学習を進めることができた。

##### エ 外国語を学ぶ意義や価値に迫る活動であること（長期的な目標をもたせる）

コミュニケーションできた喜びは次のコミュニケーションへの意欲へとつながり、もっと多くの語彙や、表現を学習したいというコミュニケーション能力の獲得への強い動機付けへとつながっていた。

##### オ 単元や授業における到達目標を明確にすること（短期的目標をもたせる）

その授業で目指していることを明確にすることにより達成感を味わうことができた。

### 2 課題

- (1) 使える英語表現がまだ少ないことから、相手とのやり取りの中でジェスチャーなどを工夫してはいたが、うまく伝えられず、諦めて日本語を使う場面も見られた。また、使える語彙や表現が少ないために、充実したやり取りを英語だけで行うことが難しい場面も見られた。
- (2) 全ての児童にコミュニケーションの達成感・満足感を味わわせるために継続して「コミュニケーションにチャレンジする活動」に取り組む必要がある。

## V 引用文献及び参考文献

### 1 引用文献

東京都教育委員会 (2014. 3) 「平成25年度教育研究員研究報告書小学校・外国語活動」東京都教育委員会印刷物登録平成 25 年度第 193 号

文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」

文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」

文部科学省(2013)「平成 25 年度全国学力・学習状況調査 報告書 質問紙調査」

### 2 参考文献

文部科学省国立教育政策研究所(2011)「小学校外国語活動における評価方法等の工夫改善のための参考資料」

文部科学省 (2014)「初等教育資料 6 月号」

直山木綿子(2014)「小学校外国語活動のツボ」

新村出 編(1998)「広辞苑 (第 5 版)」

アレン玉井光江 (2010)「小学校英語の教育法—理論と実践」

行廣泰三 (2014)「小学校の英語教育 時計式教え方 小・中・高等学校の連係・繋がりを中心に」

Nunan, D. (1988)「The Learner-Centered Curriculum」 Cambridge: *Cambridge University Press*

Richards. J. & Rodgers, T. (1986)「Approaches and methods in language teaching.」

## VI 資料

振り返りカード Lesson( )		Name _____			
	1.	2.	3.	4.	
	月 日	月 日	月 日	月 日	
相手の考えを聞いて、新しい発見がありましたか。	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
自分の思いを相手に伝えられましたか。	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
友達とのやりとりをもっとやってみたいと思うようになりましたか。	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	
友達とのかかわりの中で気が付いたことや考えたことを書きましょう。					

☆☆☆☆ よくできた ☆☆☆ できた ☆☆ まあまあ ☆ おいしい

## 平成26年度 教育研究員名簿

### 小 学 校 ・ 外 国 語 活 動

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
中央区	佃 島 小 学 校	主任教諭	小 塚 葉 子
墨田区	業 平 小 学 校	主任教諭	金 田 晃 子
北区	赤 羽 台 西 小 学 校	主任教諭	◎関 根 愛 弓
板橋区	富 士 見 台 小 学 校	主任教諭	◎佐 川 麻 里 子
八王子市	鐘 水 小 学 校	主任教諭	吉 田 裕 介
八王子市	み な み 野 君 田 小 学 校	教 諭	江 藤 信 之
小平市	小 平 第 十 四 小 学 校	主任教諭	佐々木 真 吾

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
指導主事 岡 文 也

平成26年度  
教育研究員研究報告書

小学校・外国語活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕

平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社